

4 新型コロナ禍による観光ニーズの変化

新型コロナ禍が2年半を越え、観光行動に関する意識に変化が現れてきました。今後の観光ニーズに対応するため、コロナ禍前後の観光動向をまとめました。

コロナ禍前の観光動向

「進出し領域を拡大する日本人の国内旅行 2019」 (2019/09/25 株式会社 JTB 総合研究所によるアンケート調査より抜粋)

【調査概要】

調査方法：インターネットアンケート調査

対象者：過去1年間（2018年9月以降2019年9月まで）に1泊以上の国内旅行（業務旅行も含む）をした、全国に居住する20～69歳の男女 30,000人（スクリーニング）、2,062人（本調査）

調査時期：2019年9月10日～9月13日

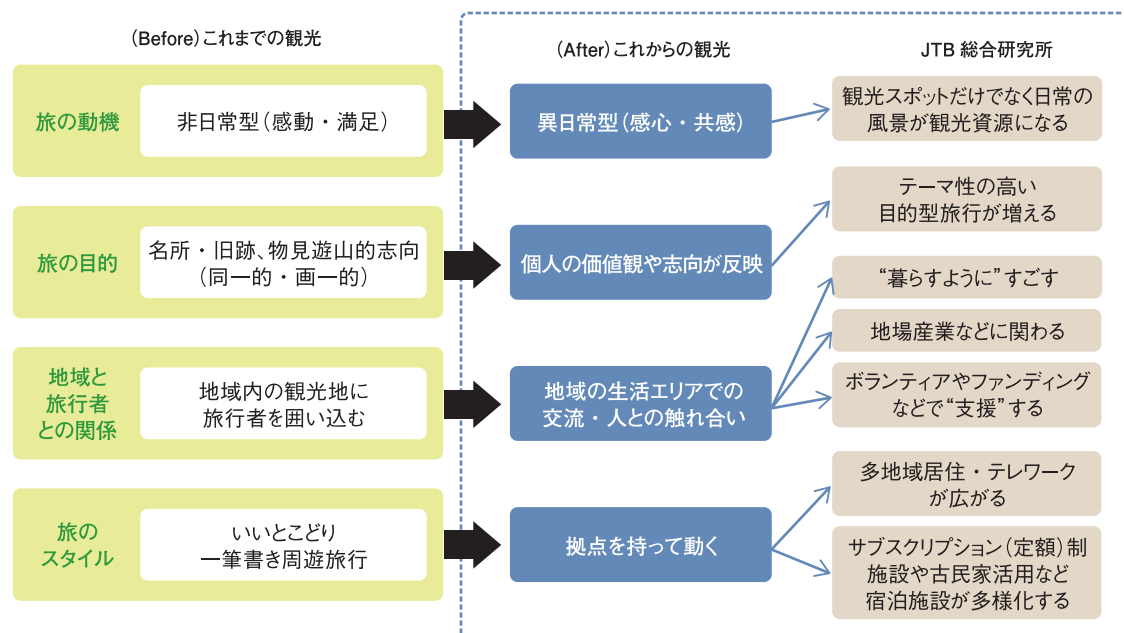
*直近の旅行実態については、以下の「旅行についての調査（JTB）」のデータを使用

対象者：過去1年間（2018年1月以降2018年12月まで）に1泊以上の国内旅行（業務旅行を除く）をした、全国に居住する20～69歳の男女 7,385人

調査時期：2018年12月18日（火）～2018年12月22日（土）

旅行・観光は デジタル化や社会構造の変化、世代交代で徐々にしかし大きく変化
観光エリアに「旅行者を囲い込む」から、旅行者が「地域の生活エリアで地域の人々と交流する」時代へ

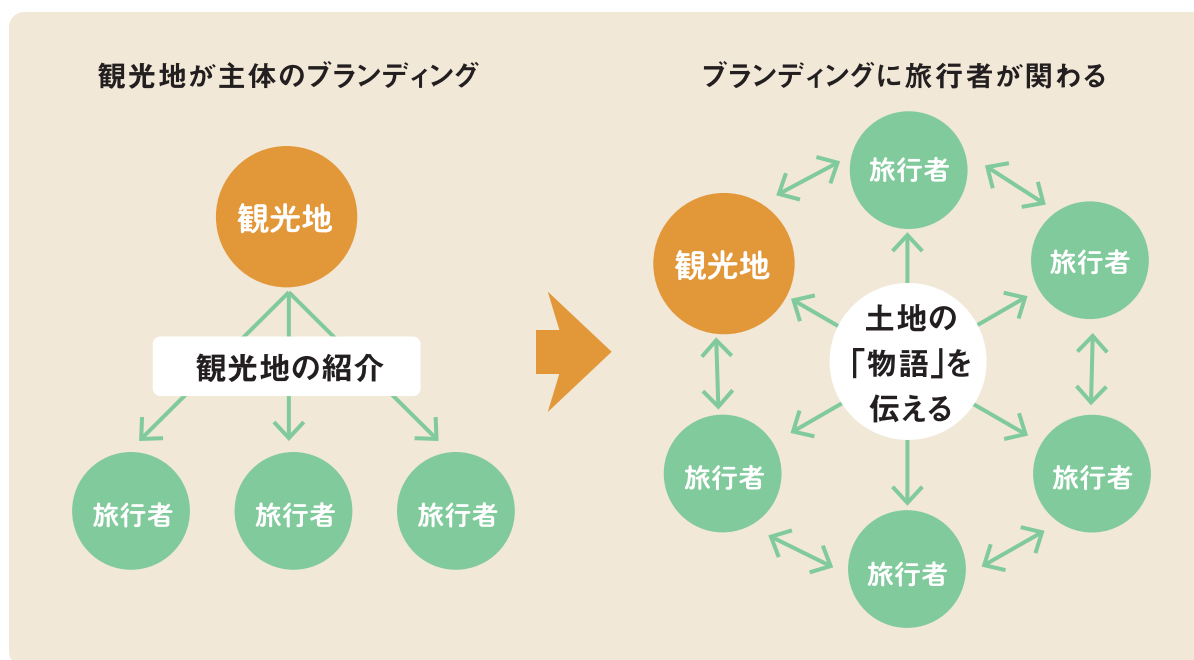
- 多くがスマートフォンを所有し SNS を通じて個人のネットワークが構築され、
情報の取得だけでなく「発信」により「個人」の力が強くなっている
- 観光地や観光事業者から一方的に発信された情報をもとに行動するのではなく、
個人の価値観や志向がより強く反映される旅行のあり方へ広がりを見せている
- 若い世代ほど旅先で生活エリアでの地元の人との交流を望み、上の世代は知的好奇心を
埋めるような観光の場を求める傾向にある



※SNS

Social Networking Service の略で、インターネット上で、個人同士が繋がることのできるような場所を提供しているサービスの総称。

地域と旅行者の「関係性」は変化し、
 ネットワークの中で循環する「個人」発信の情報も
 地域ブランドイメージの形成に重要な位置を占めるようになってきた



(参考 1) 交流についての考え方

(複数回答)

		地域の活動 に参加する など、積極的 に交流を 持ちたい	農家民泊 など、地域の 人とふれあえ るところに 泊りたい	お店の おばちゃん などと雑談 するのが 好き	地域の歴史 や文化に ついて、 より深く 知りたい	地域の産業 について 深く知りたい	地域の日常 生活に 触れたい	地域の人と よりも、旅行者 同士で現地 の情報交換 をしたり 交流したり したい	その他	地域の人や 他の旅行者 と交流を 持ちたいと 思ったこと はない
全体	3608	8.8	8.7	23.6	39.3	13.9	21.1	6.8	0.6	32.3
男性 20代	258	20.5	12.4	22.5	33.7	22.5	23.6	7.8	0.0	28.7
男性 30代	258	13.2	10.5	18.6	36.0	16.7	19.8	6.6	0.4	33.3
男性 40代	258	9.3	9.7	29.1	35.3	14.3	19.4	5.8	0.4	34.1
男性 50代	515	5.8	6.6	21.0	42.1	15.7	21.0	3.7	0.6	30.3
男性 60代	515	8.0	8.9	24.5	48.3	14.8	22.3	8.2	1.0	29.9
女性 20代	258	10.1	8.5	26.4	23.3	8.5	17.1	8.5	0.0	41.5
女性 30代	258	7.8	12.0	22.9	31.4	12.4	19.8	2.7	0.4	38.4
女性 40代	258	10.9	8.5	22.9	35.3	13.2	19.8	4.3	0.0	36.0
女性 50代	515	7.0	8.2	25.2	41.0	11.5	22.9	8.7	0.6	30.5
女性 60代	515	5.2	6.4	23.5	46.4	11.8	21.7	8.9	1.2	29.5

男性 20代、女性 20代と 30代は他の世代と比較すると
 地域の活動や地域の人とのふれあいに対する関心が高い。
 また、男性、女性ともに 60代は半数近くが
 地域の歴史や文化に関心を持っている。

新世代の新しい価値観の影響で宿泊施設が多様化
 宿泊施設に関する今後の利用意向について、
 形態に関わらず全体的に **20～30 歳代女性で高い**

(表 1) 今後利用を増やしたい宿泊施設(性年代別) *抜粋 (複数回答)

	都市型 旅館	グランピング キャンプ場 コテージ	テーマ性 のある 宿泊施設	古民家 町屋	ゲストハウス ユースホテル など	民泊 パッケージ レンタル
全 体(2062)	207	14.1	11.4	8.7	6.2	5.0
男性 20 代(201)	20.4	12.9	12.9	6.5	10.9	7.0
男性 30 代(201)	29.9	20.9	13.9	10.4	7.5	9.5
男性 40 代(204)	19.6	15.2	6.4	5.4	4.9	4.9
男性 50 代(212)	17.0	8.0	5.2	5.7	3.8	3.3
男性 60 代(213)	13.6	8.0	7.5	9.4	1.4	2.3
女性 20 代(201)	24.9	21.9	19.9	9.0	12.4	4.0
女性 30 代(203)	26.6	22.7	12.8	10.8	8.9	4.9
女性 40 代(210)	19.0	18.1	16.2	12.9	7.1	5.7
女性 50 代(204)	18.6	9.8	11.3	9.8	2.5	4.4
女性 60 代(213)	18.3	4.7	8.9	7.0	2.8	4.7

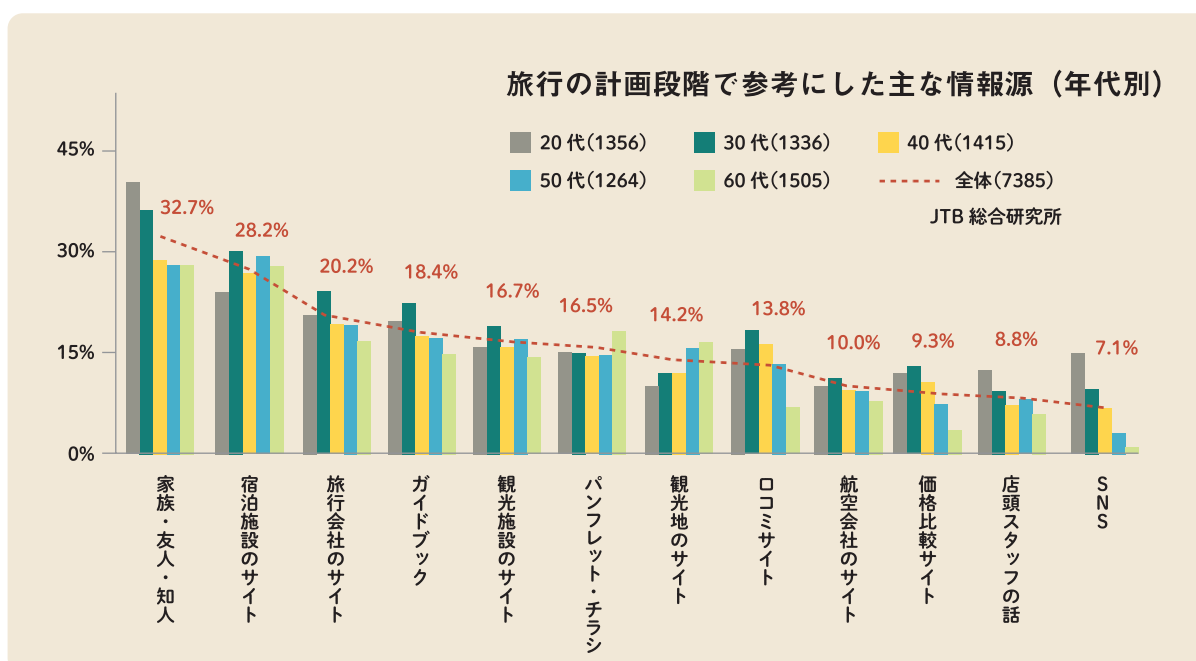
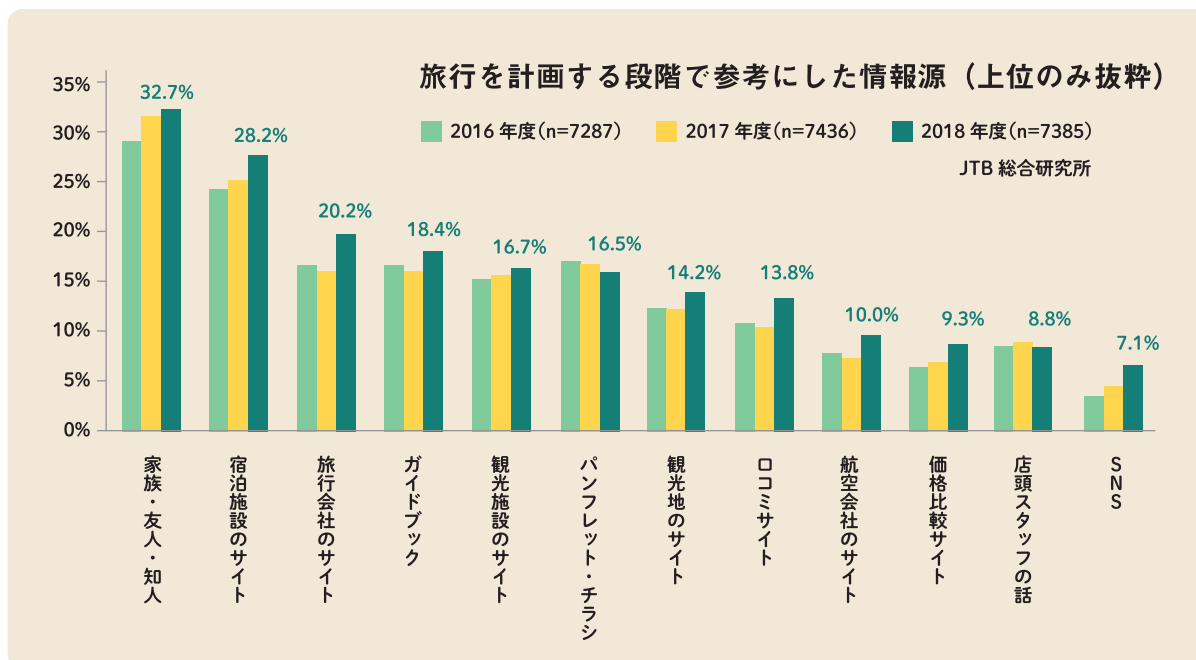
20代、30代ではアウトドア系の宿泊施設が人気となっている。
 ゲストハウス、ユースホテルと合わせ、
 低価格もひとつの要因であると思われる。

※ゲストハウス
 一般的には宿泊所を指す。安価な簡易宿泊施設。

※ユースホテル
 ドイツ発祥の宿泊施設。その地域ならではの体験プログラムや地域の観光案内などを行っている。

※パッケージレンタル
 オーナーが使用していない期間に別荘やコンドミニアムを第三者が借りること。

旅行の情報源は信頼できる身近な人と Web サイト



これからの観光の主となる
20代、30代世代で情報の信頼性に対する考え方に変化がみられる。
情報を発信する側の意識も変わっていかないと、
情報を受け取る側とのミスマッチが生まれる可能性がある。

コロナ禍以後の観光動向

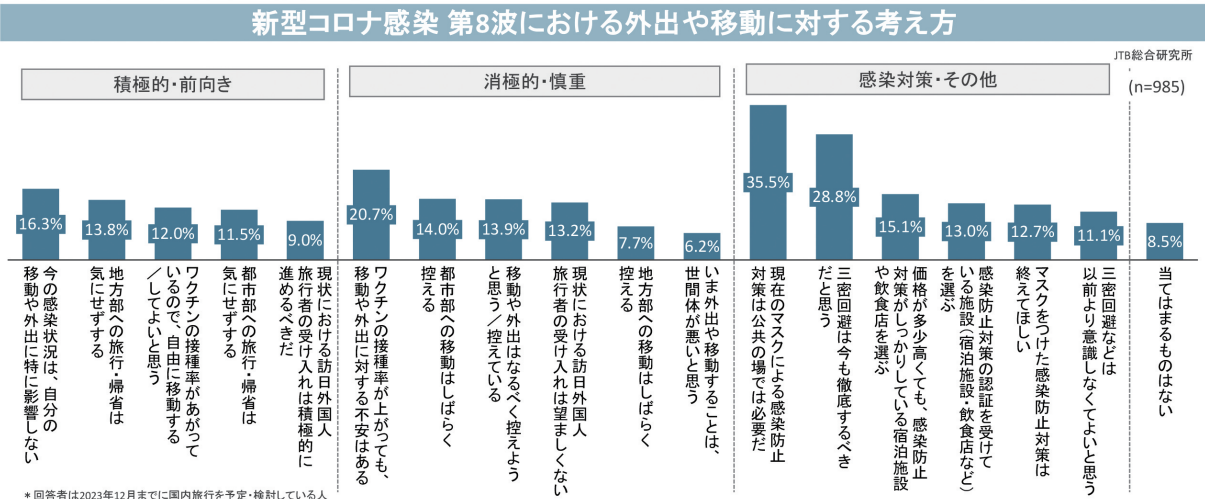
「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化と旅行に関する意識調査 (2023年1月)」～行動制限のない第8波における個人の意識と旅行～ (株)JTB 総合研究所より抜粋

【調査概要】

調査手法：インターネット調査会社が保有しているモニターに対して、インターネットでの予備調査を実施、対象者を抽出後に本調査を実施

調査実施期間		調査対象者		回答者数		主な出来事
		予備調査	本調査	予備調査	本調査	
2020	2月調査 2月21～27日	全国に居住する20歳以上の男女 * 性年代での均等割付	「2020年中に国内・海外旅行のずれか、または両方を予定・検討している」と回答した人	6,557	1,030	全国小中高一斉休校、イベント延期・中止を要請
	3月調査 3月14～20日			6,471	1,018	東京五輪・パラ延期をIOCが承認
	4月調査 4月10～14日			6,488	1,002	全国に緊急事態宣言が発令(4/16)
	5月調査 5月12～16日			6,464	1,020	全国の緊急事態宣言が解除(5/20)
	6月調査 6月18～20日			6,407	1,060	県境をまたぐ移動を全面的に解除(6/19)
	9月調査 9月25～30日			6,581	937	7月からGoToキャンペーン開始(10月より東京も対象)
2021	1月調査 1月20～25日	6,520	984	2度目の緊急事態宣言が発令(1/4: 一都三県、1/14: 11都府県に拡大)		
	3月調査 3月26～31日	6,438	984	一都三県の緊急事態宣言を解除、大阪府「まん延防止等重点措置」適用を全国で初めて国に要請		
	7月調査 7月16～23日	6,482	964	東京都と沖縄県に緊急事態宣言、東京五輪が開幕		
	10月調査 10月5～13日	6,383	994	緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が約半年ぶりに全面解除。酒類の提供等が段階的に解禁		
2022	3月調査 3月25～31日	6,583	988	オミクロン株による感染拡大により22年1月より続いていたまん延防止等重点措置が全面解除		
	7月調査 7月19～24日	6,561	1,017	オミクロン株の派生型による感染が拡大し「第7波」に入る		
	12月調査 12月2～7日	6,441	985	9月以降、水際対策が順次緩和。10月から全国旅行支援が開始。感染者は増加し第8波に入る		

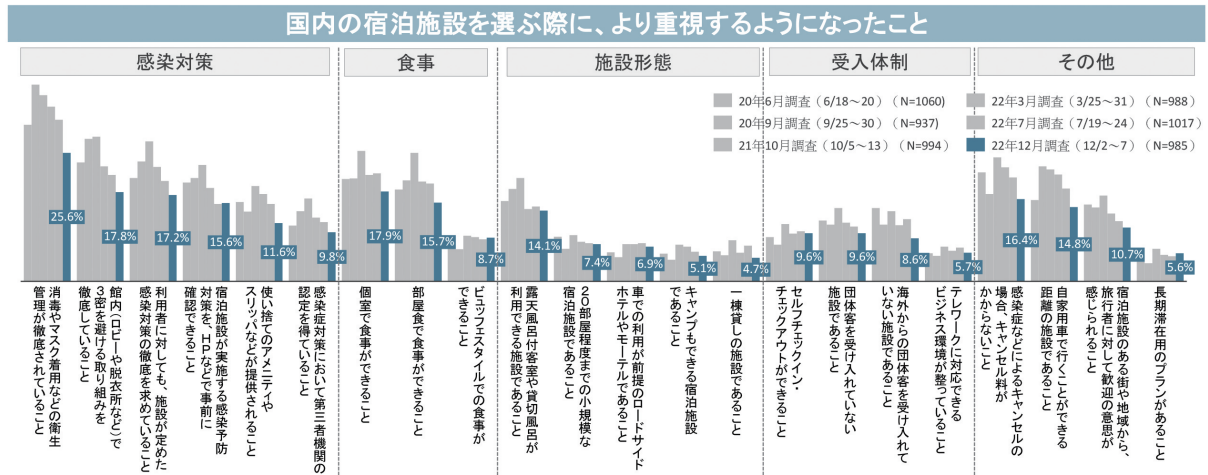
新型コロナ 第8波における外出や移動に対する考え方



外出や移動への考え方は依然として慎重な姿勢がみられますが、感染防止意識は減退傾向となり「マスクによる感染防止対策は公共の場では必要(35.5%)」、「三密回避は今も徹底するべきだと思う(28.8%)」。

国内の宿泊施設を選ぶ際により重視するようになったこと

(複数回答)

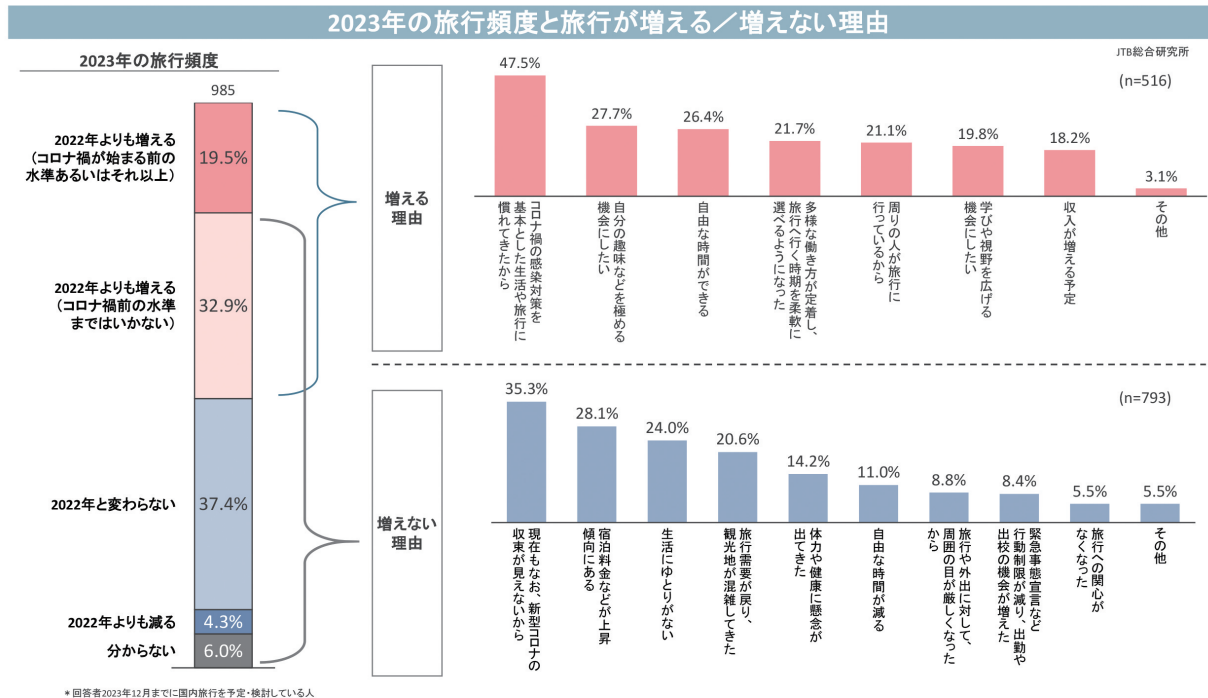


* 20年6月調査は2020年内に国内または海外旅行を予定・検討している人、20年9月調査は2021年6月までに国内旅行を予定・検討している人、21年10月調査は22年9月までに国内旅行を予定・検討している人、22年3月調査は23年3月、22年7月調査は23年7月までに国内旅行を予定・検討している人、22年12月調査は23年12月までに国内旅行を予定・検討している人

宿泊に対する意識でも感染対策は減退傾向ですが、「宿泊施設の感染予防対策をHPで事前に確認できること」は前回並みの15.6%など、項目ごとに違いが見られます。

2023年の旅行頻度と旅行が増える／増えない理由

(単数回答／複数回答)



* 回答者2023年12月までに国内旅行を予定・検討している人

旅の安全・安心に対する関心はコロナ禍を経て高くなり、事前の情報提供や信頼できる情報が求められています。さらに、2022年の調査では「行ったことがないところに行きたい」という意見が全年代で1位となり、既存観光地から新たな観光地への来訪意向が高まるなど、コロナ禍を境に観光ニーズが変化を続けています。今後もニーズの変化に対応する必要があります。